



## 委員会視察報告書

委員会名	産業建設常任委員会
視察地	福井県越前市
調査項目	道の駅「越前たけふ」コンセプト及び地域振興
調査目的	道の駅再開発が柏崎市の地域活性化の起爆剤となるのか、他市の取組を参考とするため、道の駅「越前たけふ」を調査することを目的に視察を行った。
日時	令和5（2023）年8月29日（火）午前9時～午前10時45分
場所	越前市役所 道の駅越前たけふ（現地視察）
調査概要	<p>越前市 人口：80,337人（令和5年4月1日現在） 面積：230.70km<sup>2</sup></p> <p>越前市は福井県のほぼ中央に位置し、市の中央を関西・中京圏などの主要都市との交通の動脈である北陸自動車と国道8号が縦断している。 また北陸新幹線が令和6年（2024年）春に敦賀市まで延伸し、越前市東部に新駅「越前たけふ駅」が設置される予定。</p> <p>越前市は工場の受け入れが多く、ものづくり産業（トヨタ関係や半導体の工場など）が盛んで、工場出荷額は越前市が福井県内で2位。 観光を取り巻く概況は、観光を通じた地域の持続可能性への寄与と観光地競争の激化により、国内旅行者は減少しているが、旅行するならお金をかける傾向にある。そんな中で福井県越前市の認知度は低く、日帰り客がメインで観光消費額は少ない。 しかし、新幹線駅開業等のアクセス向上で誘客可能性が増大することを期待している。 伝統産業をはじめ、地域特有の資源が豊富なため、越前市は、文化・観光・経済の好循環を目指している。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・価値に共感するターゲット層への売込む</li><li>・「越前」をキーワードに認知度向上と誘客を</li><li>・高付加価値化を通じ消費拡大と経済効果へ</li></ul> <p>平成27年（2015年）12月に策定した「北陸新幹線南越前駅周辺整備事業基本計画」に基づき、工事を実施。 令和5年（2023年）3月18日供用開始</p>

	<p>道の駅の施設側には地域振興施設・休憩施設・多目的広場・交流広場・駐車場・周回道路があり、駅西交通広場には駅東パークアンドライド駐車場・周回道路がある。</p> <p>道の駅たけふ 敷地面積：17,000 m<sup>2</sup> 建 物：鉄骨造 2階建て 延床 1396.80 m<sup>2</sup>（市整備分） 木造平屋建て 延床 357.61 m<sup>2</sup>（県整備分） 施設概要：休憩施設、地域振興施設、駐車場、多目的広場、交流広場、東西連絡道路、EV ステーション コンセプト：コウノトリの翼に包まれる、人・食・文化が集う交流拠点で、施設デザインは、北陸新幹線越前たけふ駅のデザインと調和するようモチーフに市の鳥である「コウノトリ」を取り入れ、羽ばたくコウノトリを表現している。</p> <p>駅西交通広場、駅東パーク・アンド・ライド駐車場、周回道路が整備されている。</p> <p>道の駅施設管理（指定管理者）は、株式会社鮮魚丸松であり、物販飲食事業者は、テナント 5 件、委託販売業者は約 50 事業者である。</p> <p>施設デザインは丹南地区の伝統工芸品等の素材を取り入れた内装となっており、越前和紙・越前打刃物・越前焼・越前箆筒・越前漆器が使用されている。</p>
<p>視 察 の 様 子</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>越前市役所での説明</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>「道の駅越前たけふ」にて</p> </div> </div>
<p>質 疑 応 答</p>	<p><b>質問 1</b> 周辺に存在する道の駅や他施設との差別戦略は</p> <p><b>回答 1</b> 交通網の立地、ゲートウェイ機能、丹南に訪れた方への伝統文化の PR、防災機能を備えること、また、物販や誘客イベントでの地域活性化により差別化を図っている。</p> <p><b>質問 2</b> 道の駅と地域の商店街との関わりについて</p> <p><b>回答 2</b> 中心市街地からおよそ 3 km 離れているので特に関わりはない。</p> <p><b>質問 3</b> 来場者のアクセス方法。車・電車等の利用割合について</p> <p><b>回答 3</b> 自家用車や観光バスが全体の 95% である。</p>

	<p><b>質問4</b> 開業してから人の流れの変化や市民の反応は</p> <p><b>回答4</b> 地域の方々も利用しており、イベントも多く行っているの で、若者の交流も図られている。</p> <p><b>質問5</b> 牡蠣小屋やBBQ施設の利用は</p> <p><b>回答5</b> 好評で、当初の計画期間よりも延長している。</p> <p><b>質問6</b> 道の駅から市内観光施設へ 500円で移動できるタクシーチケットの利用率は</p> <p><b>回答6</b> 自家用車が多いため、今のところチケット利用はほぼない。 来春から新幹線が開業すれば、利用率も上がるのではないかと期待している。</p> <p><b>質問7</b> 利用されている地域の方からの意見で多いものは。</p> <p><b>回答7</b> 利用しやすいというの反面、場所が分かりづらいという声もある。看板の増設を9月定例会で上程予定である。</p> <p><b>質問8</b> 道の駅が及ぼす地域振興、経済的波及効果について</p> <p><b>回答8</b> 課題は少子高齢化により生産年齢人口の減などが上げられるが、伝統工芸に関わるものやイベント開催の継続などにより交流人口増を期待している</p>
委員会所感	<p><b>【阿部 基】</b></p> <p>越前市では、観光における現状と課題として、ホテルなどの宿泊施設が少なく、日帰りの観光客がメインであると、真摯に受け止め、高速道路インターチェンジ及び北陸新幹線越前たけふ駅前に合計約600台が駐車できる24時間無料駐車場を整備した道の駅を開設した。</p> <p>道の駅を整備する場所の理由、地域にもたらす経済効果などの分析は重要であることを再認識した。</p> <p>柏崎市は休止中の道の駅について、再整備を進める計画であるが、如何に人を呼び込み、地域経済に寄与できるかが、課題である。</p> <p>今後、示される詳細について、分析するとともに、経済効果向上のために何が必要なのかを提言できるよう研究が必要と感じた。</p> <p><b>【田邊優香】</b></p> <p>「北陸新幹線南越駅周辺整備基本計画」に基づき道の駅を整備している。道の駅たけふのコンセプトは「コウノトリ」をモチーフに人・食・文化が集う交流の拠点ということであった。</p> <p>令和5年3月より共用開始となり多目的広場では毎週イベントが開催され、コンセプト通り観光客だけでなく地域住民や若い人の交流が盛んであるという。本市も道の駅整備をするにあたりしっかりとしたコンセ</p>

プトを持ち、観光客だけでなく、地域住民や若い人が集える場所となるよう委員会としても調査研究を進めていきたい。

#### 【山崎智仁】

道の駅の立地における戦略について学ぶことができた。道の駅「越前たけふ」は高速道路インターと国道8号線、北陸新幹線駅が合わさる立地となる。道の駅「越前たけふ」の集客機能と同時に、越前市内の観光拠点や、地域の特産である越前和紙や越前打刃物関連施設への連結を重視した事業であるとの説明を受け、市内観光の戦略的な位置付けを見ることができた。道の駅内の飲食エリアには宴会、アルコールの提供を行う事業者も参画しており、道の駅としながらも北陸新幹線の開業をにらんだ滞在・利用のケースを想定している。北陸新幹線開業後には、パークアンドライド想定した大型駐車場と高速バス発券施設など交通の結節点としての道の駅の活用について、今後も注視していきたい。

#### 【池野里美】

この道の駅は、来年開通する新幹線の駅前であり、国道8号線、高速道路からも近く、広域交通の拠点となっていて立地がとても良い。新幹線が開通していない現在は、周辺は田園風景という印象だが、その点を活かし、駅周辺に無料のパークアンドライド駐車場を600台整備している。大雪の際の国道からの退避場所として、防災の観点からの活用もできるとのことである。今後は新幹線の利用客も見込み、市内の観光施設への500円で移動できるタクシーチケットも用意している。

3月に道の駅が開業してから、入込客数の年間25万人を8月で達成し、年間売り上げも現在、7割程度で今後達成予定である。指定管理者が榎鮮魚丸松で、地場の新鮮な魚介が手に入る利点があり、牡蠣小屋の利用も好評で期間を延長している。また、毎月イベントを開催し、集客、PRへも力を入れている。道の駅ブームの今、他と差別化を図るには、まずはコンセプト、そして、立地の良さに加え、PRの工夫が大切と学んだ。

#### 【相澤宗一】

道の駅の目的は「道路利用者への安全で快適な道路交通環境の提供」と「地域振興に寄与」であるが、ここ越前市の道の駅は北陸新幹線「越前たけふ駅」の駅舎に直結する形で存在しており、新幹線を利用される方のことを意識したつくりとなっていた。

また、近隣市町の情報発信も行うなど、道の駅をまちの玄関口としてとらえ、エリア全体を盛り上げる工夫もされていた。

道の駅なのだから車が主体になるが、観光の面から新幹線を利用する人にも、週一のマグロ解体ショーをはじめ、手ぶらBBQなど斬新なアイデアは旅路を飽きさせず、リピーターになり得ると思う。

新幹線利用客用にある終日無料駐車場との隣接はとても便利であり、旅好きな地域の方にとっては少し離れていようが、わざわざ出向いてでも利用するのではないかと思う。

柏崎の新しい道の駅は、また来たい、何度も来たいと思わせるしつらえを皆で考えたい。

### 【真貝維義】

令和5年(2023)年3月にオープンした道の駅「越前たけふ」は、北陸新幹線の新駅「越前たけふ駅」に隣接した施設で、地元鮮魚店が指定管理者で運営管理をしている。

道の駅のコンセプトである「地域とともにつくる 個性豊かなにぎわいの場」に基づき、食・文化が集い、地域のランドマークとなる施設を目指している。また、北陸新幹線の駅だけでなく、主要交通網(8号線、高速道路「武生 IC」)の近くに位置していることから、地元住民や観光客など幅広い人たちからの利用を目指している。また、交流施設では道の駅で買った鮮魚などの食材をその場で BBQ することができるし、車中泊やキャンプなどにも使える。休憩施設は県の施設であり県との連携も見える。

飲食物販販売には約50社が出店しているが、指定管理期間は10年と長く、指定管理料も高額(年約9千万円)である。当市においても道の駅整備計画は、目的・コンセプトそして事業計画、市の観光や地域経済への波及効果を明確にして取り組むべきと考える。